# 滿洲日報

滿曆八月二十九日（つちのえ ね）

●新聞代價表　一枚三錢　一ヶ月前金六十錢　半ヶ年全三圓四十錢　一ヶ年全六圓五十錢　滿洲各地への郵稅は一切不申受

●廣告料　五號活字十九字詰一行一回五十錢　特別廣告は全

發行所　營口南本街　滿洲日報社　電話　編輯室一一二　事務室一一九

奉天大東門内　滿洲日報社支局
全十間房　滿洲日報社出張所
鐵嶺　滿洲日報社支局
公主嶺　滿洲日報社出張所
孟家屯　滿洲日報社出張所
大連信濃町　滿洲日報社支局
長春城内　滿洲日報社出張所

鐵道列車發着時刻表

線　金州發　瓦房店發　大石橋發　遼陽着　蘇家屯着　公主嶺發　孟家屯着　長春發　寬城子着　奉天着　大連着　[illegible]

○蘇家屯驛に於て大石橋驛に於て[illegible]

## 論說

### 營口問題に就て後藤總裁に望む（下）

此際に於ける後藤氏の答は『大連と而して營口の滿洲貿易に於ける關係は最も論究を要する問題の一也。余の政策は唯だ不公平なる方法を避けて滿洲全体の繁榮を謀るの外無し隨て奉天營口間奉天大連間の賃銀は哩數を基礎として公平なる比例を取らしむるを以て決して營口のみに不利を被らしむるものに非らず。』との最も平凡なる而して、カウエン氏の問に對し、少しも概要を得ざるの答にして、一も鉄道事情に通せざる門外漢と雖も容易に口に上すを得べき言也。而も其容易に口に上すを得べき平凡なる言責か今果して微細乍らも現實されつゝありや如何。世人は洵とに其の然らざるを認むると同時に、這般を通して營口衰兆たる一道の流が直に眼前に漂ひ來るものあらん。即はち後藤氏が言責を忘れ大連本能論を實行するに汲々として、營口を顧慮せざるの餘り、能く斯の如きの狀勢を醸す。

國旗の翻ぶる處談笑は聞え、談笑の聞ゆる處亦た生存競爭之れに伴ひ、而して生存競爭の起る處必らすや、經濟的活動を包含す。南滿洲鐵道の敷設圈内又た正に到る處經濟的活動を演せらるへきの地なりとす。而るに或る一小地域の繁榮を見て、力を是れに蒐注し、他の衰頽を省みすして總ての活動を委靡せしむるか如きは、鐵道政策として頗る其の當を得たるの措置に非さる也。鐵道は交通機關なり。交通は人類の活動に便宜を均霑せしめ、人類の活動を迅速ならしむるの性質を有す。南滿鐵道の如きは果して這の性質を帶して步を捗めつゝある乎。吾人は遺憾乍ら否の一字を以て答辨せさるへからす、寔とに近き過去よりして後藤總裁の採りつゝある大連本能主義は斷々乎として營口を蹂躙し、斷々乎として營口の活動力を奪ひ去らんとす。營口を虐待するの一事は即はち大連以北長春に至るの直通線に重きを置き、而して大石橋以西の支岐線を輕侮するの偏見より生じ、併せて營口發達の前途が、他に比して稍々長時日を要するの基因より來るも、過渡時代に處しつゝある營口の現境をして爾かく逆待の鞭を下すに急なるは寧ろ憫れむ可からすや、況んや營口は左程の鞭を加へらるへき地格と偏癖を有せさるに於ておや。

大連は不凍港也。營口は凍港也。遼河の流は滾々として盡くるの時なきも、年毎に氷は結んで船を行らず、天を鎖ざすの寒害は長く春候に及ぶ。鐵路は斯の如きの時季に於て其最も急忙なるを告けながら、市街停車場の如きは徒らに其聲のみを喧ふして、實質の之れに副はざるに徵し、或は列車發着時間の旅客に尠からす不便を與ふるが如きに徵し、而も尚且つ現時の狀態を繼續するに於ては、滿洲貿易殊に營口貿易の前途頗る憂惧すへき也。

是に於て吾人は彼のカウエン氏の實質論より觀察したる鋭敏なる見解に誠しむ、後藤氏たるもの、宜しく大連經營、若しくは直線經營に腐心するを歇めて、自言自責に對し、反省一番營口經營を急忽に斷行し、南滿鐵道全部に向つて交通均霑の公平なる處置に出てさる可からず、吾人は一日も速く營口の前途か繁榮の日光によりて輝やかん絆切望の至に堪えさる也。（和田生）

## 善隣時事

▲西太后の垂詢　西太后は本月一日軍機大臣張之洞を召見し滿洲統治策に就きて垂詢あらせられたるか要は人才を拔擢して之か統治を托せよとの思召しなりしと云ふ

▲民撰議院開設請願　日本留學生憲政會の代表者熊範輿、沈鈞興、恒鈞、雷光宇等過日北京に來り士民に代りて民選議院の開設を請願するの上書を都察院に奉れり此上書に署名せしもの同憲政會員等百餘名なりと清國人民の政治に關する請願を爲せるは之れを以て嚆矢とす

▲郵信の檢閲　外務部郵電部及稅務處各大臣等近來革命黨等か密謀を企て暗に消息を通しつゝあるとを探知し總稅務司ヘート氏に計り各稅關附屬の郵政司に訓令して凡て往來の書信は一々開封し嚴しく檢閲を行ふへき旨を傳へ且つ南北洋通商大臣より各海關道臺に命し之れを勵行せしめたりと云ふ

▲阿部代理公使の要求　阿部代理公使は傳教問題に關し過日外務部に要求して曰く列國は皆な布教の自由を有し到る所教堂教民を有するに係らす日本の此利益に均霑するとを阻害せんとするは理由なきとなり今後日本僧徒か布教を爲し教會を設くる等に就ては各地方官より充分の保護を與へ決して士民の妨害を受けしめさる手段を講せられたしと

▲張袁二軍機と聯姻　張之洞と袁世凱とは現に北京政府の柱石なるか今國事多艱の場合皇太后には其和衷共濟の方法として特に慶親王に命して媒介を爲さしめ袁軍機の四歲の少公子と張軍機の最幼女公子と婚姻せしむるの計畫にして目下其の商議中なりと

▲趙總督赴任期　同總督は去る二十九日北京出發赴任せらるゝ筈なりしも其後北京政府の都合により暫時留京のとゝなり過日の朗潤園要政會議に列したる次第なるか本月五日愈特別瀛車にて赴任するとに決し其家族は三日先發武昌に向へりと

## 一人一話（四）
### 山川正金專務の金融觀（其下）

▲企業界の愼重　日露戰役の景氣に驅られて一時は盲目的に只前進を急ぎたる企業家は、種々の事業を企畫したるも其多くは遂に悲運の狀況に墜りたると、既に世人の知る所の如し故に心ある企業家も茲に鑑みる所ありて、深く輕擧盲動を戒め、其失敗を再びせさらんことを欲しつゝあるもの、如し既に此決心あり、又斯く決心せさるへからさる運命に遭遇しつゝある以上は、假令經濟界順境を維持し、金融界亦從て良好に向ふも容易に心動き、再び中止せる會社を起し、又盛んに拂込をなすか如き無常識のとをなすへしと思はれす、而して又よしや之を企つるものありとするも、之と相應して世の資本家も動くへしと思はれされは經濟界繁榮の結果、各種の既設事業の利益多き者あるにもせよ、新事業は之を見て直ちに起ると言ふが如きと萬々之れあらさるへきを信す

▲結論　余輩の金融の前途に關する豫想は此の如しと雖も、是れ皆今日實際に見つゝある既知的諸事情より推究したる觀察に過ぎず、余輩思ふ金融の前途を左右そるものは決して啻に此今日知り得る既知的情のみによるものにあらす毫も今日に於て豫期すへからさる未知的事情によりて支配せらるゝこと亦實に至大なり、其未知的事情と云ふも種々ありて固より一定せすと雖も、先つ之を大別するときは内國的と外國的との二大方面よりするものとなすことを得へし而して外國よりするものは、彼の紐育の恐慌の如き世界的影響をなすものあると雖も、其今日となりては一時的のものにして、其影響も亦極めて大ならす其他にありては歐洲經濟界の好況、米國の旺盛等先つ未知問題として大なるもの近く現はるへしとも思はれされど、内國的に之を考ふれは却て未知的事情の如何に發現し來らんとするかに疑なき能はす、他なし、政府の財政的施設實に是れなり、政府の爲すへき事業の多きとは既に世の知る所の如し、而して政府は此事業を進行する爲めに急速の方針をとるか、緩徐として是に當るか、而して是れか資金の供給は何時如何なる方法に求めんとするか、大藏證券によるも公債によるも又借入金によるも是れ皆均しく我金融界の影響を免かるへからす、若し果して然りとすれは假令民間の經濟に伴ふ金融は好調を呈すへき趨勢にあるとするも、此政府財政の方針に關する未知問題の實動如何は如何に我金融の前途を決すへき乎、容易に知測すべからさるなり

## 滿洲百人物
### （六）渡邊水哉

我邦前後二回の大戰、武名遠近を震恐す。凡そ帝國軍人、誰れか桓々の武夫に非ずとする、中に就て在金州渡邊旅團長の如き、蓋し其最も剛勇なる者に非ずや。

君は勇將中の勇將を以て目すべき者、而も其勇や寧ろ沈勇也、口吃として其言に堪へざるが如く、謙讓下を率ゐ、衆皆悅服す。日露の役、大佐を以て滿洲の野に轉戰し、攻城野戰、幾數十合屢々危地に出入し、驍勇雙無く、殊に奇功あり。役後凱旋大閱兵式の擧行せらるゝや、殊勳の故を以て特に拜謁を賜はり優奬を辱ふす、君感泣至恩を拜して退く、榮なりと謂ふべし。

君明治三十年前後、北海道札幌に獨立大隊長たり、當時頭髮已に霜白、君の謙德を知らざる者、見て以て老耄の一士官と爲す、然れども君益々謙讓、潛心露滿の情勢を考究し、屢々中野次郎氏等立つる所の露清語學校に來り、諸生を訓諭す、知る者固より以て君を耄せりとせざる也。爾來未だ十年ならず、果して累遷現職に進み、滿洲守備の重任に當る、拔群の勳功の致す所と雖も、蓋し亦由る所ある也。

君は常に恬淡、一も玩好ある無し、唯だ圍碁に至りては、頗る下手の橫數寄たり、餘暇ある輒ち客を延き鷺烏を鬪はさざる無し、亦胸中の閑日月を見るべき也。

## 讀んで泣くべき書

伊藤仁齋が孔明の出師表を讀んで泣かざる者は其人必ず不忠といひしは前后二篇の出師表中に活現せる諸葛の至誠、至情が字々是れ血、句々是れ涙なるが故なり

少時、靖獻遺言を讀みたるものは必らず多少感憤して、之に次ぐに啼泣したる經驗を有し居らん、中年に至りヤ ベルトの航海記、ラスキンの古羅馬行を讀みたらん人は衣を九仞の谷に揮ふの壯大美を感じて手の舞ひ足の踏むを覺えざりしならん、要は著者心血の文字、先づ自ら感じて書きたるか故に、こゝに始めて讀者を感ぜしむるを得るなり

何の感興もなくして蒭米の資に逐はれて文を賣る當世の文士輩は第一に感興を養ふの必要あるべし、今日の學徒が書を讀んで泣かざるは泣くべき好著書なきが故ならざるか、之れ豈に明治文壇の最も耻づべき處ならずや。（猶圖生）

讀聲書會席上浩々吟翁詩。次其韵。遙寄吟翁。　保定　日岡淮海

曾記疏狂落帽時。如今自恨一身奇。
菊花將發重陽近。愧我西風兩鬢絲。

吟翁曰予不見淮海三閱月矣。涓雲秦樹。千秋之感。不能自禁。遙讀其詩。其人宛然在目。悵然久之。

古意　浩々吟翁

十年盟不嫁。苦過九年華。偏怕一年後。郞無納妾家。

又

易老妾顏色。不防郞鬢華。嗟郞垂四十。底事不成家。

## 快男兒

第八十三回　渡邊默禪

琴『ハイ何と被仰いましても、此事ばかりは……お母さまえ、眞平御勘辨遊ばして下さいまし』と泣沈む、棟庵は眼配せなし　棟『コリヤ駄目でげす、貴女樣のお心遣ひを無にした上、愚老までも踏附になさる量簡と見えますわい　菊『エ、眞箇に憎くい奴、如何して遣らう』と在合ふ煙管を押つ取つて、首筋に一打吃はせたるが苛責の端緒、脅しつ賺しつ折檻を加へたれど、固く拒んで聽ぜざるに、遂には棟庵と手を協同し、其座より曳摺出して、母舍續きの土藏へ突入れ、ガラ〲ストンと網戸を閉して、窮命の幽囚となすに至れり、お琴は身も世もあらぬ懷、冷たき板の間に泣倒れたる儘、悲しき其夜を迎へしが、九つ夜十二時近き頃、雪洞片手に網戸の側へ立寄りしは、俄かに鬼と變りし繼母の菊代か　菊『お琴や、コレお琴』と呼ぶ聲に、お琴はふツと、首持上げて　琴『オ、母樣』と形容を直し、涙に曇る瞼を拭きながら、網戸に洩れ來る、微かな明りに、仰ぎ看れば、翳せし雪洞に、際立ちて映る橫顏に怪しうポツと紅らみて櫻の花の夕陽を浴びたるにも似たり、寢酒を過せしとは直に心注く術もなく　琴『何ぞ御用で』と摺寄るを、菊代はヂロリと睨み　菊『如何だお琴や、些とは究命に懲りて後悔をする樣な優しい心になりましたか、おまへは妾を繼母だと、見侮つて居るから、何事にも僻根性が先に立て、右といへば左、彼箇といへば恁う、一々抗らつて、困らせやうとばかり爲なさる、先刻の噺も、畢竟は和女の出世になれかしと、行末かりにして此の母が賴んだのでも、その情を仇にして何の箇のと、口應へをした揚句が、打たれても叩かれても、平氣の平左、親を親とも思はない橫着さには、妾しもホト〱呆れて了ひました、和女の樣な不孝者を子に持つて居た日には、此の母の菊代は壽命が縮まります、身を刻まれても親になつて居たくはないから、今夜限りふツつりと、親子の縁を切りますぞえ　琴『エ、ツ　菊『是れからはアカの他人ですぞ、情願お母樣なぞと呼んでくださるな、サア、他人となつたら、モウ遠慮會釋はない、何なりと勝手に振舞ひなさい、ソノ代り妾しも意地だ、一旦言ひ出した事は理が非でも立て透して、屹と清水樣の思召しに隨はせる可厭だとこねて居る間は、一月は愚か、半年でも一年でも此の土藏の中に、叩ツ込んで骨と皮ばかりになるまでも、責めて責めて責め拔くから、ソノ覺悟で居ろ、エ、眞箇に剛情な奴だ』と罵しる口の下より、ケープツ酒の暖樽柿の匂ひを吹く、お琴は身も世もあらぬ悲しさ　琴『母さま、情願御勘忍遊ばして下さいまし、お氣に逆ひましたのは、全く妾しの無調法で、何とお叱りを受けましても、返す言葉はございませんが、それゆゑ親子の縁を、き、き、切るなぞと被仰いますのは、そ、そ、そりやア餘まりの御短氣でござんする、ぞ、情願それだけは御了簡を……　菊『では言ふ事を聞いて、素直に清水樣へ縁付くか　琴『サア、それが出來ますくらいなら、こ、こ、こ這那にお腹を立たせは致しませんが、得心をいたしたくとも、妾の心が……帶刀さまに對して操を破るのは、甚麼も此の心が許しません、モシ母さま、お腹立なら何樣御折檻を遊ばしても、決してお怨みはいたしませんから、ソノ縁談だけは一生のお願ひでございます、キツパリと先樣へ、お斷りを……　菊『コレお琴、二言目には直に帶刀々々、ソノ帶刀が口の端に附いて居る樣で、妾しア、可笑しくツてなりませんが、和女がそれ程に心中立をしてる帶刀はね、今になつて漸と分ツたか、推察どほり、モウ此世には……　琴『エ、ツ　菊『喫驚せずにお聞き、おまへが餘まり無理を立てるので、存生して居るものなら、義理に引離すのも可哀想だと思つて、晝の中念の爲に、會津屋敷へ人を遣つて、東京へ送られた藩中の中に、秋月帶刀が居るか如何かと尋ねさせた所が、送られて來た事は來たけれど、間もなく病死したとふ噂、戰爭で受けた瘡が原因となり、今ソノ使ひが戻つて來たから、態々和女に知らせに來ました、アヽ惜い男を亡くしてのけて、氣の毒な事を爲ましたなア　琴『ヒエー、それではアノ兄さまが、東京で御病死を……アヽ、な、な情ない何としたら可いだらう』と張詰めたる氣も愕然と覺えず袂に咬着いて、身悶えしつゝ泣沈みぬ。

□岡部二郎氏曰く

予は英米佛の神經小說を寧ろ耽讀する方なるが如何に創意が嶄新でも、文章が流麗でも、現代の世相と人情を微に入り細に渉りて描寫しても、それでは未だ不滿足に思ふ、小說は讀者をして篇中の人物に全化せしめ共に哭し共に歡ぶの至境に入らしめなくてはならぬ云々、知らず氏の最も愛讀するはソラかバッサンかモリエールか或はサッカレーか？

[illegible]邦民及滿洲の事情を知らんと欲する者は一日も我紙を閑却すべからず

## 倫敦電報

### 米國の海軍建設（三日發電）

米國大統領ルーズベルト氏はセント、ルイスに於て演說し實戰に適すへき一大海軍の建設に對して贊助を要求せり、且つ同氏は米國にして常に太平洋に集中せしむるに現時に於けるそれよりも更に一層有力なる戰艦隊を以てそること能はさる限りは士官及び水兵をして近海に對して海軍必需の知識と經驗とを取得せしめむが爲めに航海の必要ある以所を說けり、而して同氏は所謂近海とは紐育ルイシアナ、テキサス等の沿岸領海を意味する旨を特に注意せり

### 英帝の御訪問（同上）

獨國皇帝及皇后の兩陛下は英國訪問を終りし後ウヰルヘルミナ女皇陛下を蘭國に訪問せらるゝ筈なり

### 大統領と海軍擴張（四日發電）

大統領ルーズベルト氏はイリノイス州カイロ市の演說に於て海軍擴張を主張し且つ述へて曰く屈辱ある平和は個人に取りても決して忍ぶこと能はさる所なり況や國家をや故に今日以後太西太平の兩洋を通し米國戰艦を相互に轉航せしむへき方針を採用せむことを熱望すと

## 東京電報

### 清國公使の着任

五日午前九時五十二分東京特電

新任駐日清國公使李氏昨夜着任せり

## 大連電報

### 滿鐵主任內定

五日午后一時五十分大連支社特電

滿洲鐵過遼陽地方部出張所主任には神谷氏、全奉天地方部出張所主任には大河平氏孰れも就職に內定せり

### 滿鐵病院經費豫算

滿洲鉄道病院の組織從來より多少變更せらるべく而して大連醫院の經費は十二万圓全部を通じて約三十余万圓の豫算に決せり

### 長春ホテルと大島氏

滿鐵長春ホテルは大和ホテルに屬し一般旅客の宿泊に便宜なる待遇をなす由にて視察として大和ホテル主任大島德藏氏明日長春へ向ふ由

### 複線工事と澤井組

蓋平大石橋間複線工事の再入札尚ほ不成立となりたる結果澤井組に隨意契約の上全工事を請負はしむることに決せり

### 二十里堡大橋石複線請負

二十里堡大石橋間複線工事請負は大倉、管原、江守、杉井、飯塚等に指名されたるも豫算超過して不成立となり再入札に附せらる

## 雜報

### 銀貨輸出禁止に關する交涉問題

過般禁道臺より當領事團に向ひ營口埠に於ける冬期金融の逼塞を救解せん爲めに銀貨輸出を禁止せんことを交涉し來れるを以て各領事は自國商人の意見を徵し更に領事會議を開きしに禁道臺の出席說明を求めんの說に一決し一昨四日午前十一時に禁道臺は約の如くに出席せり而して其說明せる處は左の如し

過爐銀制度に據る當埠に於ける諸取引は總て現金授受にあらずして單に帳簿上の勘定に過ぎざるが故に資本固定して商業の沈滯するを免れず故に過爐銀の清算期に至れば其不足分は現金を以て支拂ふべきを嚴命せり而して其支拂は總て小銀貨を以てするを例とすれども小銀貨流失欠乏の爲め支拂不可能となれり加之目下當埠に於ける小銀貨相場は上海に比し安價なるを以て上海に輸出せらるゝもの日に多きを加へ小銀貨の欠乏益々甚だしきに至れり故に過爐銀の精算期即ち冬期間丈け小銀貨の輸出を禁止したし云々

右の意見に對し米國領事は贊成を表し日英領事も大体に於ては異議なきも昨五日より十日間試驗的に該禁止案を施行し其成績を鑑み若し好良ならは更に領事會議を開きて該案に贊襄するとに決せり（未完）

### 間島派兵に就て

清國か陳昭常を督辦邊防使として間島に派兵するとしたるか其の後右の兵數を增加するの形跡顯著なるを以て萩原總領事より警告する所ありたる趣は既報の如くなるか今聞く所に據れは清國に於ても右の警告を道理ありとなし派兵數を制限して最初聲明したる步騎三小隊に止むるとすべしと

### 徐總督彈劾の內幕

徐總督が過般來屢々彈劾を蒙り居るに付きては趙前將軍も無論其の主なる使嗾者なるべきか今聞く所に據れは徐總督の彈劾により革職されたる前將軍時代の官吏は何れも徐總督を貶さんとて熱心に運動し居り就中前の營口稅關總辦駿忠鄕は相當の資產もあるとて御史を買收して頻りに徐總督に對して矢を放たしめ居れる由なるが過般在東京の留學生か都察院及外務部に對し徐總督の外交軟を取擊せる長大の上書をなしたるも全く駿か手を廻はして爲さしめたる所なりと云ふ

### 上京後の徐總督（趙前將軍との會見）

徐總督は上京間もなく兩宮に拜謁し東三省の政務に關して奏上する所あり兩宮よりも種々御下問御訓諭ありたるか爾來各軍機大臣其の他大官と往來して諸般の協議に多忙を極めつゝある由なるか去る二日には趙前將軍とも會見したりと云ふ兩者か爾來彈劾に報ゆるに彈劾を以てし互に暗闘しつゝありしは甚だ好ましからさる現象なれは右の會見は兩者の反感を融和せしめん爲めに慶親王袁大軍機等の配慮に出てたるものなるべしと傳へらる

### 禁道臺の後任者

同道臺轉任の事は昨報の如くなるが其後任者は漢江道臺朱恩紱氏と確定す榮轉に重ぬるに男子を擧げたる禁氏の得意想ふべし

**交涉局總辦の上京** 遼陽交涉局總辦于沖漢氏過日上京謁見を命せられ目下滯京中なるか既に公務を終り不日歸遼すへしと

**吳祿貞の昇級** 間島に派遣され居る吉林邊防使會辦たる吳祿貞は今回協都統（少將に當る）に昇級せり

**駐淸米國公使の來奉** 駐淸米國公使は本月一日北京を發しシベリア鐵道により歐洲を經て歸國の途に就きし筈なるか其途上東三省の通商情況を視察する爲め三日夜奉天に下車せりと云ふ

### 鮫島師團長の來奉

豫て告別旁々敬意を表せん爲め北京に觀見せる鮫島師團長は副官と共に一昨四日午後八時京奉線に由り奉天へ到着せられたるが多分昨五日には遼陽に歸任せらるゝ筈なりといふ

### 清國學生の戰迹視察

在保定淸國陸軍大學敎官及び學生八十餘名は旅順、南山、得利寺、遼陽、沙河、奉天等の戰迹見學の爲め已に保定府を發し目下其途上に在るが同大學顧問陸軍少佐寺西秀武氏は先發として一昨夜來營淸林館に投宿昨朝旅順に向け出發し又昨夜は同大學敎官守永大尉來着今夜は同中村大尉來着の筈にて學生等は明七日當地着の豫定なり寺西少佐の旅順行は都督府との打合せの爲めにて今回は多人數の見學とい比殊に淸國學生が親しく當年大戰の迹を視察講究するは將來淸國陸軍の發達進步上にも多大の利益と爲るべきを以て視察上十分の便宜を得せしめん爲め斯くは同少佐の先發を見たる次第なり尙學生等は視察後山海關附近にて參謀演習を行ひ歸校の筈なりといふ

**獨乙將校の沙河戰迹視察** 滿洲戰迹視察の爲め目下在奉中の獨乙陸軍將校グレトチ少佐以下十名は二日晚奉天着翌三日午前一行は獨乙領事館を訪問午後奉天附近の戰迹見學四日沙河の古戰場を視察せるが滿鐵會社にては一行に對し特に二等客車一輛を同地迄運轉せしめ其他視察種々の便宜を與へたりと

**中村少佐の轉任** 旅順海軍鎮守府工作部付海軍少佐中村正奇氏は今回軍艦常磐水雷長に轉任を命ぜられたるに付去る四日赴任の途に就きたり

**速水領事の奉天行** 遼陽速水副領事は奉天總領事館と事務打合の爲め三日午前奉天に赴き四日歸館せり

**奥山氏の辭任** 小寺洋行の奥山喜代太郎氏は此程居留民團の政準備委員會委員及官有財產管理委員を辭退せり

### 旅順發電所の新設計

旅順中央發電所は從來小案子山下なる桃園町孔家屯にして元旅順中央牛嶋の攻擊せらるゝに當り露國が旅順要塞の防備を一層嚴重ならしめんが爲め大連中央發電所にありたる瀛機及發電機の一部を運搬し來り尙ほ所在の船用瀛罐を据付け急造したるものにして東は二龍山、松樹山、孔家屯、大小案子山、椅子山方面西は西太陽溝保壘に亘る防禦線に探照燈點火の爲め又は空窖內照明用電燈點火の爲め且つ壘砲臺線前方に設けたる數條の鉄銅線柵（電流鉄條網）に高壓電流を供給する目的を以て一時的の設置をなしたるものなれば市街に電燈を供給せしものに非ず殊に發電所は開城に際し故意に各機械器具等は各種專門的破壞をなしたれば修理に困難なるは尠なからざりし然るに開城後旅順に於ける電燈作業設備の爲め陸軍工兵中尉中屋重樹氏以上遼東守備軍司令部付として配屬せられ去る三十八年二月之れが修理に着手したり偶明治三十九年四月關東總督府移轉と共に益々電燈の增加を來し不完全なる該發電所の設備にては將來一般電燈の需要に應ずる能はざるにより電燈班にては本年二月大島町に二十五万有余圓を投じて新たに發電所の起工に着手し米國に注文せし最新式の機械も既に据付を終り遲くも本年十一月上旬には竣工の豫定なりと因に電燈事務所は是まで桃園町に設けありしも去る九月より事務所を青葉町に移し一般電燈申込を受けつゝあり電燈望みの向きは至急申込むべしと

### 英國領事デビイト夫人（上）

令嬢と令夫人（其二）

大英國領事館は門を入り事務所を右手に內門を潜れは淸楚なる花園に沿ふて建られたる建物は領事の官舍である、夫人は新婚希望の光冴渡れる愛嬌溢るゝか如き仲々の美人、實父はイ、エ、サルヂエントとて當地にて金滿家の商人夫人は橫濱にて生れ神戶に生長し、頗る日本語に長し、英語に長せる窪田夫人なとも對談の時は日本語を用ひたまふ位、今の良人、英領事か此夫人を見染むるや官衙の仕事も手に附かす、一切夢中にて每日滿洲ホテルに赴き該孃に會見し到頭手に入れたまひしとの事夫人の接客時間は每日午后五時よりにて訪問子訪問の時は瀟洒たる白服を着け人待顏なりき、訪問子を見るや溢るゝ丈の愛嬌にて迎へたまふ、夫人の日本語に長せるを知れるを以て日本語を用ひんとを乞ひしもどうしても謙遜して日本語を遣ひたまはず、已むを得ず最后迄英語にて會談せり

夫人の珈琲を欲するや否との問に、訪問子は欲するの旨を答へしに夫人は喜色滿面更に砂糖を投すへきや否を問はるゝ、訪問子は大に可なりとの旨を答ふれは、夫人は日本の御方は餘り砂糖を好まず歐米の人は皆砂糖を用ひますが人は文明になる程砂糖を嗜みますと、何處迄も客を外らしたまはぬ應接ぶり流石はと深く感じまゐらせり

### 吉林一年間輸入貨物總額

吉林省城に輸入する貨物は概ね大連營口等より輸入せるものと滿洲各地より來るものなるが其昨年に於ける輸入貨物の總額は左に擧る所の如し（吉林一吊は我約四十錢）

| 貨目 | 輸入總數 | 價格 |
|---|---|---|
| 搭連布 | 二、七八三包 | 六二、二六〇吊 |
| 花旗布 | 四、四四五 | 九三、四五〇 |
| 大尺布 | 八、六一三 | 二、七九一、九五〇 |
| 白套布 | 三、一六九 | 一、六四〇、二八〇 |
| 清水布 | 一、二一五 | 一七〇、一〇〇 |
| 紅糖 | 一六、三九〇包 | 二三三、七八〇吊 |
| 白糖 | 九、〇二三 | 二七〇、六九〇 |
| 海紙 | 四八、六五〇 | 二三三、一五〇 |
| 茶葉 | 五、九〇〇 | 五三一、〇〇〇 |
| 面域 | 一、一四八、〇八九 | 一、七三三、一三三 |
| 土域 | 六八九、一二三 | 八二、六九四 |
| 狐皮 | 一、二九七張 | 二四、九二六吊 |
| 貉皮 | 九二 | 五九八 |
| 貂皮 | 八七 | 二〇〇 |
| 鹿皮 | 四二 | 三八、二二三 |
| 虎皮 | 二 | 一、〇〇〇 |
| 水獺皮 | 八一 | 一、四五八 |
| 灰鼠皮 | 七六 | 二、九六四 |
| 鹿茸 | 二〇、四六一 | 三、二七六 |
| 雜貨 | 三二架 | 六八一吊 |
| 藥材 | 三、三二三包 | 一、二三三、一〇〇兩 |
| 藥材（省城外） | | 五〇三、一五三兩 |
| （省城內） | | 二三七、〇四八兩 |
| 合計 | 錢九百三十四万二千九百十三吊 | |
| | 銀一百九十万二千三百兩 | |

### 當地八月中の商況

爰許一般の商況は不相變閑散の姿に候得共例年の如く夏枯の時季に遠ざかり秋季に近づくに從ひ追々活氣を呈しつゝあるは事實に有之候現に本月半ば頃に至り漸次奥行きの貨物增加し來り昨今に於ける滿鐵營口驛の出荷高は平均一日五六十臺に登り居候此外河船に據り遼河流域地方に出荷するもの及關外線に依り遼西地方に出荷するもの其額又鮮少ならざる可く而して今後出荷追々增加ずるとも減退致間敷則ち出荷高の增加は取引の催進を意味するものとせば前途稍ゝ好望ならんかと存じ候▲豆粕市況は現品拂底なると需要季節の來らざるとに因り極めて沈靜なれども大豆は本月中旬以來時々降雨ありて水嵩を增張し河船の下航を助けたるを以て幸ひに日々相當の入津ありて目下漸く當港埠頭は大豆船集來し帆檣林立の壯觀を呈するに至り又久しく休業の姿なりし各油坊の煙突も昨今弗々煤煙を吐き始め申候左れば鉄嶺以北に停滯せる大豆も悉く下航し終らんとする頃には引續き新豆の出盛りとなり內地需要季節の切迫と相俟つて大豆豆粕は勿論其他一般の商品共取引追々頻繁に相成可申と被存候（松茂洋行報告摘錄）

### 解河以來取扱店細別

當港本年解河以來去八月末日に至る六ヶ月間に於る瀛船の取扱店別は左の如し

| | | |
|---|---|---|
| 松茂洋行 | 五四隻 | 四二一九六噸 |
| 太古洋行 | 一五六 | 一五四三八六 |
| 旗昌洋行 | 一〇八 | 一一七四六三 |
| 遠來洋行 | 三六 | 四四四八九 |
| 東和公司 | 五五 | 三二〇〇五 |
| 恰和洋行 | 一一 | 一五六九二 |
| 三井洋行 | 一五 | 一五九六七 |
| 瑞記洋行 | 四 | 三五九八 |
| 太安公司 | 二〇 | 一三二一六 |
| チンシップ | 四七 | 一七六〇九 |
| 船長扱 | 二 | 八八一 |
| 美孚公司 | 一 | 一〇〇五八 |
| スタンダードオイルコンパニー | 一 | 九一〇 |
| 合計 | 五〇九 | 四五九二四八 |

### 當港入船の國籍及噸數

三月八日開港以來去八月末日迄の入港瀛船國籍及噸數累計左の如し

| | | |
|---|---|---|
| 日本 | 百七十七隻 | 十五万三千六百四十四噸 |
| 英國 | 二百二十五隻 | 二十二万千二百六十一噸 |
| 佛國 | 十八隻 | 一万二千四百三十八噸 |
| 獨國 | 三隻 | 三千九百五十九噸 |
| 清國 | 七十二隻 | 五万四千八百六十噸 |
| 諸威國 | 十三隻 | 一万〇八百十五噸 |
| 露國 | 一隻 | 二千二百六十一噸 |
| 合計 | 五百〇九隻 | 四十五万九千二百四十八噸 |

### アルトベルグ氏談片

瑞典人ジー、アルトベルグ氏は一昨日奉天より來營昨朝大連に向け出發せり氏は倫敦に本店を伯林及び紐育に支店を有する器械製造、器械製造販賣會社の出張員にて今度日本へ出張の歸途滿洲へ立寄れるなり氏の語る處に據れば日本に於ける器械類市場は頗る有望なり滿洲は諸事草始の際にて殊に滿鐵なとは既に他と契約を了したれば差當り面白き商談に接せざれども漸々は有望なるべし云々猶氏と同行せる該會社の橫濱代理店フヮボウ商會石坂剛二郎氏の言に據れば該出張員は常に世界各地を巡遊し在家は一年間一月に過ぎざる由外國商の販路擴張に熱心なる感嘆すべきにあらずや

### 鴨綠江對岸の電話開通

安東縣と對岸新義州とは昨今益々其關係を緊密ならしめたるも從來兩地間の電話は未だ開通し居らざりしを以て至大の不便を感しつゝありしが今回水底線を沈設し去る二日より愈々兩地の間に電話の開始を見るに至れり

### 奉天官設製紙場開場

奉天は衙署甚だ多く日常使用する所の用紙も日々莫大なる高に達するを以て兼て一官立の製紙場を設け一切用紙は凡て此所にありて製造せしむる事となり居りしか同製紙場は愈々來る陰曆九月一日より開業する筈にて學務所よりは既に樣式を作り注文を爲したりといふ

### 居留地租地契約法の問合

滿洲各地開放地の經營方法に就ては淸國政府は凡て南淸の各通商港に傚ひたるものなるか今回奉天居留地の確定と共に內外人に其地面の租借を爲すに當り其契約の方法は如何にすへきやに就て奉天巡撫より江蘇巡撫に照會し上海に於ける租地契約方法を問合はしたりと云ふ

### 京城民報社長の滿洲視察

京城民報社長古江香典氏は滿洲視察の爲め去る一日奉天に到着せるか北方視察の上は當方面へも來るへしと

### 日曜講壇

午前十時より日本領事館裏基督教會にて「愛と犧牲」及午後七時半より元神廟街青年會館にて「青年の宗敎」なる題下に青年會主事宮田守衛氏の說話あり傍聽隨意▲舊市街本願寺出張所に於ては常例に依り午後一時及七時の兩回に日曜說敎を開き寺本布教師より說敎あり一般公衆の來聽を歡迎する由

### □長岡農學士の警言

大連より營口に入るの途次、偶ま在大連農事試驗場長たる長岡堯氏に逢ふ、氏慷慨一番して曰く、滿洲の經營には農產物の耕作獎勵を忘るべからず、然るに我か邦人やゝもすれは滿洲の經營とは徒らに一攫千金の大仕事をのみの如くに云ふ、誤れるの甚しきものなりと殖民地の富源は其土地に在りとは千古不磨の原則ならすや云々

### 筆墨魔

醫學社界で木村孝藏クンといへば外科の神サマのやうに尊ばれて居る、長らく記者の郷里金澤にあつて金澤醫學專門學校長で病院長を兼ね、名聲嘖々たる者で、北陸では銅像を建てゝ其功勞を表彰した位だ▲木村君にツイ近頃遇ふた頭、白衣の外科手術服を着たまゝ新聞の廣告面にあつた見て、包莖無痛切開といふ山子醫者の業々しい廣告を見て一笑して曰れるやうには▲西洋では包莖切開どころか反對に皮を被せる手術をしてゐる、元來男子の利器は皮冠りが系統である、試みに歐米人のを見ると悉く包莖ばかりである、包莖は世界人類の多數を支配してゐると云てよろしい、然るに包莖を以て一大恥辱の如く心得るのは日本人ばかりである▲イヤ日本人の外に猶太人も恥辱とするそうだから世界に於ける鋒鋩露出黨はジウとジャパニーズだけとはそれこそ深く恥づべきことだ▲のみならず神經の鋭敏な處は皮を以て包んて置くといふのは醫學上から見ても當然のことである云々▲或酒席で之をば當地の某ドクトルに話した、その人笑ふて曰くサ、木村クンは談話にかけては鋒鋩露出黨の巨魁であらうと

### 大相撲三日目勝負

綾川勝時は双方烈しく突合綾烈しく砲張を時へタキ込に防ぎ綾左筈にタスキを抜けしもきまらず時殘り双方烈しく投打合胴体に[illegible]寄進むを手柄下手投打て勝▲鳳西昇は鳳烈しく突手を西コタエ鳳の右差を西泉川にキメ出さんとし鳳トッタリにて防ぎ西二度泉川にキメ出さんとする鼻をタスキに拔てト[illegible]ッタリ美事[illegible]風の勝は番くるわせ▲鳴[illegible]ずトッタリ打トケテ高根二本差となり押進を緣に上げ物言ひつきしは八百長相撲なり▲[illegible]鼻をトッタリにて加古の勝▲有知山今錦は左四ッ今の寄り鼻を下手投にて有知の勝▲大林小綠は化粧立數回立上るや烈しく突合藁人形の撿查役立合勸進元千勝館主迄立合ひ扣力士に交涉し明日番外に勝負とらせると約したり右は相撲にあらず狂言なり▲中

營口乘車乘船最好の位置（電話一八七）
**專業旅館 東京樓**
團隊四人樣以上は規定宿料外格安勉强割引可仕候高等御下宿は面議廉價御用向可申上候

**一般患者ノ診療ニ應ス**（往診入院隨意）
院長醫學士 松井甚四郞

### 天氣豫報

自十月五日午後六時 至十月六日午後六時

營口地方 南の風曇り小雨

押切らんとする前時ハタキに防ぎ捷あやぶく殘り二本差にて押切らんとするを小手投にて時の勝▲濱ケ崎手柄山は左四ッ濱スカサず肩スカし引しも手柄たくみに殘り濱の戸岩土州山は立上り左四ッ土州釣出さんとするを鳴首割に防ぎ土州二度釣身に寄を下手投にて鳴の勝▲高根松加古川は高根の右差加古泉川にキメ出んとするを高根すかさ殘り大二タ度寄身を綠下手投打つ双方烈しく投打合水入後大一氣に寄切らんとするを綠下手投に防ぎ二タ度大の寄鼻を綠の下手投きまらず同体に倒れ行司吉岡一學は軍配を下手投にて大の勝▲左倉川いは右四ッ寄切ていの勝▲琴の浦朝日潟は立上るや右四ツ寄切て琴の勝打出四時二十分

後藤滿鐵總裁の御施設も時に下情に通ぜざるところもあるかの樣に思はれますが之を兎や角と申す側の人からを見ると何か滿鐵を利用して一儲けぜんとの當の外れた人に多き樣なり特立獨行以て商賣に從事する大連市吉野町の(田)川村洋行は甚だ之を感服不仕候

新市街鴻來街　營口同仁醫院　電話番號　七八番事務室　一七一番病室

大連　南の風晴れ　奉天　南の風曇り
最高七一、六　高一、四六
最低六一、〇　高二三、六

## 講談 假名太閤記

（第七十六席）　松林伯知口演

秀次公は小原女を庭前へ連れ來りたる由御聞きになると、ツカ〳〵と夫れへ御立出になる、椽先へ腰を掛けて其女の樣子を凝と視て居られた　秀「伴作仲々善い女ぢやな、伴「御意に厶います　秀「コレ〳〵誰かある鳥居を呼んで參れ　○「ハツ」と應へて若侍入代つて夫れへ現はれましたる人物は、鳥居宗右衛門といつて武藝の達人だ、畏る〳〵秀次公の前へ兩手を突かへ　鳥「何御用に厶いまするか　秀「オウ鳥居か、どうじや、夫に居る女は　鳥「ハツ此女が如何致しましたか　秀「イヤ何うも致しはせぬが、見ろ大分腹が大いようではないか、察するに是は双見であるかも分らぬ、付て其方に腹割き役を申付ける　鳥「何、私に腹割き役を……　秀「如何にも、其方の腕前で一つ見事にやつて見い　鳥「へイ……」是には鳥居宗右衛門も驚いた、幾ら武藝の名人だつて姙婦の腹などを割いたことはない、第一こんな慘酷な事の出來べきで厶ませぬから、大きに躊躇つた　鳥「私には迚もそんな事は出來ませぬ……　秀「イヤ構はぬ〳〵、さう遠慮をするな」誰が遠慮などをする奴があるものか、宗右衛門どうしても御受けをしない終ひには秀次公ヂリ〳〵して居らしつた、秀「ウーム意苦地のない奴ぢな、コレ、誰でも宜いから此女の腹を裂け」大音に仰せられたが、誰一人私がやりませうと言ふものはない、是はさうで厶いませう、今は秀次公面色變じ　秀「ヤア、何れも是れも意苦地のなき奴ばかり、宜し、最早汝等の手は借りぬ、秀次自から手を下してやるわ、コレ女、此秀次が汝の腹を割くから左樣心得ろ」言はれて女はもう生きたる心地もない女「どうぞ御許しを願ひます……私は主ある者で厶います、腹を割くなどと……　秀「エ、愚圖々々言ふな、覺悟をしろ」とバラ〳〵と夫れへ飛出して、矢庭に其女を引倒した秀次公、右手にギラリと拔いたる短刀は菊一文字、イヤもう無慘と言はうか、何と言はうか言語同斷、御側の者も何うかして之を御留め申したいとは思つたが、餘り秀次公の勢ひが烈しいので口が出せない、只茫然として居るのみ、其内に秀次公は短刀逆手に取直し　秀「此女奴がッ」と言ふ儘アヘヤ其女の腹へ突立てんと致せし所へ、折も折、近侍の者より注進に依つて、バラ〳〵〳〵足音烈しく夫れへ駈込み來つた一人は例の木村常陸介で厶います、今秀次公が女の腹を割かんとして居るのを見ると赫と眼を怒らして　常「我君御免ッ」と言ひさま秀次公の足を拂つた、アッと言つて倒れる所を飛掛つて秀次公の襟髮を押へ　常「ウーム古への桀紂にも彌まさる無道の御振舞此姙婦は誰人の妻か、此姙婦は何れの民ぞ、皆之れ天子の御民ならずや、下々には慈悲を垂れ仁政を施さねばならぬ關白の御身にてありながら、無慘や此女の腹割かんなぞとは如何なる天魔の魅入しものか、若し此事太閤殿下の御耳に入らば災ひ立ち所に至るべし、其邊は御氣は付かれませぬか御返答次第に依つては常陸介其分には棄置きませぬぞ」と怒りに任して秀次公を二三間向ふへ投付けた、幾ら秀次公だつて斯うなつては仕樣がない　秀「常陸介許せ〳〵」と言つて奧へ逃込んで仕舞つた、常陸介直に其女を助けて之を良人の許へ歸してやる

所が此事は外に洩れまじと思ひきや、兼て長束大藏の方から這入つて居たるわやと云ふ女が殘らず此事を書取つて大藏に送る、遂に淀樣の口より秀吉公の御耳に這入るやうな事になります。

## ●營口に入るの記（二）

そこで僕は先々月源暑鐵を溶かす眞夏の頃、東京を去つて、神戸に來り、彌々旅裝を整へ、是から將に發程の途に就かんとして、山手に寓して居る或る知己の人を訪ね、而して再び東の方浪華の地に二人の親友を襲ひ、兩三日滯在をして居る中、恁う云ふもの乎、非常に氣持が惡くなつて來た。時恰かも低氣壓が臺灣海峡の邊りを疾驅して、內地に闖入し來らんとする前てあつた。だもんだから、多分これは天候柄てあるだらうと自分勝手の診斷をして、力めて浪華の地理に闇い僕は面白くも無い裏長屋の前栽見た樣な、中島公園を始め、泉州堺の箱庭景色、其他築港、天王寺、と云ふ風に近傍の名所を、友に誘はれ、足に任せて散歩して見た。

所が恁うも追々心地が惡くなる斗りて、一日も身体に昂熱の無い日が無い位である。兎や角する途端に、遙かに鄕里の方に會はねばならぬ人が出來電報に接して、倉遑歸る緯となつた。

僕の國は南の國である。

南の國は詩の國である。

一陣除ろに吹き來る海風は業に早や詩である。感情である。靈魂である。僕は便はち其の電報を手にした夜八時頃、神戸の棧橋に躓づいたか暫時の名殘で、百四十海里るべき機械の翼に乘せられて、南の國に歸の航海を潮の高低に弄ぶられ乍ら、漸やく歸省して會ふべき人を訪ねた緯てあつた。

而して會ふべき人を訪ねて、再び神戸に復らんとした時、僕は遂に病むこと〻了つた、而かも其病が間歇性の熱てあると云ふので、恁うも捗々しく癒らぬ、彼岸に達せんとしては舵を失ひ、彼岸に達せんとしては舵を失ふ小舟の如く、孤身僅かに肉を擁して立つて居る計りて、之れでは支那行は何時の時代か分からぬ、而し如何なる煩悶を重ね、如何なる苦想を起しても、夫れは夫れは皆な僕と云ふ一個の肉體を離れぬ思想上の緯て、迚ても叶はぬ痾故と諦らめるより外に致方が無い。

醫療は元より專心のこと、やれ蚯蚓を煎じて呑んだらば癒るの、やれ蝮蛇の黑燒とキナエンを一度に服めば可くなるの、やれキモリの黑燒に星と菫を混じて服めば詐を言つた樣に癒るのと、種々樣々の緯を薦められ試つては見たが如何しても利目が無い最う此の上は內無權現大菩薩八百萬神に願懸るより外に道が無い緯となつた。（曾川）

●小田の後日物語　當地舊市街征海樓の鈴子(二一)か小田某(二五)と淺からぬ關係を生したる艷話は再三記載せしか扨ても其後去る程に鈴子は聊か感ずる所ありて金三十圓を小田に與へキッパリと手を切りて大石橋の日進館に鞍替せしかば小田は止むなく征海樓に留りてブラ〳〵遊び居りしに愈同樓も去る一日居を疊みて牛家屯神戸館まで引上げたれは小田もマサカ其跡を追ふ譯にも行かず困窮の餘りにや將た自惚の未だ消えやらぬにや翌二日大石橋へ乘り込みて鈴子に面會を求めしに先方にても薄々悟りけん留守を遣ひて逢はざれば頗る器量を下げて引戻りたるが夫れては矢張自分の勝手が惡き故尚近日重ねて押寄せ一は舊交を溫め一は懷を肥やんとて目下苦心慘憺中なりと

●遼陽美人のお炎　遼陽西門外　東洋館に鬼頭タマジ(一七)と云ふ酌婦ありオキャーセの本場たる金の鯱鉾雨ざらしの名古屋に生れしだけあつて器量も萬更ならぬ所より一時は相當に賣れ行きしか何にせよ今日此頃の不景氣にては移り替りの衣裳もロク〳〵出來難き故遂に何處でもかまはずドシ〳〵出張娼賣を遣ることに決心し其手始めとしして去る三日同西門外小島愛次郎方に一泊し翌日髮のホツレを朝風になぶらせつゝシドケなき風して歸り來る所をコラ待てと呼び留められ御規則違反とし一圓八十錢のお灸を据ゑられたれば殘りは漸く一圓二十錢之を山分けにして自分の手に殘るは僅六十錢之れでは迚ても綿入も覺束なしとて外征の初陣早々鬱ぎ居る由御愁傷の至りにこそ

●安東新報社の醜女投票　安東縣安東新報社にてはマサカ同地安東タイムス社の美人投票の向ふを張る積てもあるまいが大に風變りの否な眥つて前例なき醜女投票と云ふ珍無類の擧を企てしか大に喝采を博して去る一日締切りの結果第一等の醜女二千七十一點聚雲の仲居お錫子、第二等一千八百九十一點由良之助亭の仲居お辰の兩名、夫々光榮ても何でも無き不名譽極まる月桂冠を得前代未聞の恥なりとて大にシヨゲて居る由而して其景品に輕石、白粉、鶯の糞、石鹼美顏水、七道具等のあるなど隨分罪な企てなりと云ふべし

●大相撲二日目勝負　綾川今錦は双方烈しく突合ひ左四つ渡り綾一氣寄身を巧みしも今直と櫓投に防ぎ双方共烈しく投を打合ひ綾寄進を上手投にて今勝▲左倉川加古川は加古得意の突進を試みしも左倉へタキ込た防ぎ加古あぶなく土俵を泳ぎ立直るを左四つになり左倉肩すかし加古殘り寄進をすくひ投にて左倉の勝▲大碇小綠は大の烈しく突手を綠はたき込に防ぎ左四つになり大すくひ投をつゞけ打つ綠あやぶく殘り大二度上手投を打しも綠殘りて二本差となる綠すかさず下手投大殘り一氣に寄出さんとするを下手投にて綠の勝▲朝日潟鳳は鳳左筈を朝日むりに寄切らんとするを鳳の上手投美事きまる▲手柄山いはい左四つに渡りい出投を試みしも手柄殘り寄はなを上手投にていの勝▲大林高根松は高根の左筈を大泉川にきめ出さんとするを高根とつたりを打大あやぶく殘り二度泉川にきめ出さんとする高根トツタリの續け打し時大あやうかりしも殘り寄倒て大の勝▲中入後、土州山濱ケ崎は双方烈しく突合左四つ濱すくひ投を打しも敵にきかづ濱一氣に寄鼻を土州の上手投美事きまる▲有知山鳴戸岩は双方烈しく突合ひ有知得たりと突進む鳴戸はたき込に防ぐ右四つとなり烈投を打合有知のすくい投美事きまる▲琴の浦西昇は西の左筈を琴泉川にきめ出さんとするを西こらへもみ合ふ中水入後琴左を差し寄切て勝、打出し午后十時二十分

●大相撲四日目の勝負　連日大人氣大入なる大連大相撲の四日目の勝負左の如し

| 勝 | 決り手 | 負 | 勝 | 決り手 | 負 |
|---|---|---|---|---|---|
| 有明 | したてなげ | 小猫 | 有知嶽 | つきだし | 信乃川 |
| 濱ケ崎 | よりきり | 荒木山 | 今錦 | やぐらなげ | 清見嶽 |
| 左倉川 | うはてなげ | 土州山 | 勝時 | あづかり | 加古川 |
| 浪花瀉 | あづかり | 鳳 | 鳴戸岩 | すくひなげ | 大碇 |
| い | よりきり | 朝日瀉 | 琴の浦 | くびねじ | 高根山 |
| 中入後 | | | | | |
| 手柄山 | つりだし | 綠川 | 有知山 | したてなげ | 小綠 |
| 西昇 | はたきこみ | 大林 | | | |
| 番外 | お好 | | | | |
| 綾川 | とったり | 今錦 | | | |

●相撲評判さく〳〵　大連大相撲の興行は市中の人氣を集め居れるも惜しい事には勝負に八百長あり今ま少し眞面目に角力ふて貰いたしとの評あり記者不幸にして其眞僞を知らず▲四本柱の禁へ形土俵は神聖犯すべからざるものなるに煙艸を燻らすとは不都合なり斯道の墮落かく迄とは思はざりきと東京相撲最負の某紳士は嗟嘆せり大阪相撲の面目上少しは注意ありたきものにこそ▲三段目力士伊勢の海をして荒木山、幕下ケツ花龍山をして手柄山と化けしめて興行するとは余りに在滿洲邦民を馬鹿にせる所爲なり勸進元の不心得十分叱り置き呉れと相撲通の社友より特報ありたり

●遼陽義捐溫習會の好結果　遼陽東京亭佐藤三四郎、吾妻屋小林德松、日進ホテル井上佐吉、中北直吉、岸本幸治等の發企に係る義捐溫習會は去る二十八日より四日間東京亭に開催せしことは當時の紙上に掲げしが非常の贊成を得、總收入金二百二十一圓六十錢の實費九十七圓四十一錢を差引き殘金一百二十圓十九錢を附屬地民會に托して內地の水火罹災地に送付せる由洵に美擧の至りと云ふべし

●退清違反者の詐僞取財　鉄嶺西門外丸喜館方辻繁喜(二一)は長崎縣東彼杵郡竹松村生れの者なるが素より放浪の徒にて善からぬことのみ企て良民の安寧を妨害せる廉にて昨年十月三日奉天總領事より向ふ二個年間清國在留を禁止せられたるにも拘はらす尚各所を徘徊し先月上旬ト杉高三郎なる者と相圖りて日清同志會を起し清國人側の信用を得る爲に奉天總領事の官印を僞造して之に捺し去る二十六日より二十九日までに唐家屯の子揚外十二名より金二十六圓を詐取せしか遂に發覺して去る三日奉天總領事館へ護送せられ目下取調中なりと云ふ

●滿洲のちり　▲安東●●江戶屋には三名の新來美形顯はれ朝日の愛子は丸小支店へ轉任花園の榮吉は依願免職となつて鄕里大阪へ歸るべしと▲大連●●福岡縣鞍手郡笠松町大字倉久生れ阿部ラク(一八)は同郡宮田村青柳ハル(四二)に誘拐されて西通り曙亭に酌婦として賣られんとせし所を其筋の手にて救はれ婦人救濟所に入りたりと▲奉天●●小南門外末廣亭酌婦森山アヤノは健康診斷を受けざる爲め一圓のお灸▲公主嶺●●福岡縣筑紫郡千代村六百六十一番地平民大工園田善太郎は去る七月十四日公主嶺に於て二ケ年間の退去命令を受けたるも退清せざる爲め其筋に呼び出され來る十二日限り退去を命ぜらる

| | 小綠 | 有知山 |
|---|---|---|
| 生國 | 名古屋頭取 三ッ港貫子 | 大阪頭取 時津風貫子 |
| 體量 | 二十貫 | 二十一貫 |
| 得意 | 小手投 | 放れても四ツになりてうまし |
| 好き | 茶屋遊び | |

## 諸國物語

備前國都窪郡清音村若林繁太郎(二八)は海外旅行を思ひ立ち其免許下付の周旋を岡山市の沼本某に賴みたるに沼本は數回に三百圓計りの運動費を取り乍ら更に捗取らざりしかば不審を起して之を責めたるに沼本は其詐僞の露見のヤケクソに若林を小刀にてシタヽカ刺し遂に岩上より衝き落して自分も縊死せり▲大阪監獄に收容中の鎌刈某(三〇)は好んで蚯蚓を喰ひ又同四中の水戶某(一九)は一種の精神病にて硝子を喰ひ口中にも咽喉にも些の傷を付けずと▲大阪府下新淀川の十三渡にては渡し船轉覆して生死不明の者五名を生ぜり▲去る明治三十六年二月西本願寺前法主光尊上人の遷化に對して洛東茸山火葬場の收入金は毎年一千圓宛を本山に納めたり殘額は擧げて舊臣百五十五人の共有金に下付する事となりたるに其保管の役員中之を費消したる者あれば目下紛々中

## 投書かご

（いしほんさくた）

▲一寸の虫にも五分の魂ありと云へば人には誰でも多少の主義がある去り乍ら人に使はる〻以上は暫く此主義を包みて置く必要がある其位の度量が無くてはならぬ之れ即ち屈し後伸ぶる所以だ但阿諛盲從とは自ら別物である(大悟生)▲西洋の音樂を蜩とすれば我國の音樂は鈴虫て前なるは夏季に後は秋季に適す樣て有る(長閑)▲澤庵はバリ〳〵音をさせて食ふ方がうまい歌は郊外で大聲を發するに限る(夕陽)▲大連藥業會は之れまての樣に暴利を貪ることが出來ぬので騷ぎ出した咄々己れの非を改めよ(眞面目生)▲孟家屯のお竹に對する多田と宗、兩君の競爭流石は劣らぬ選手同志、而も公然多數ノ集る事務所で遣るとは實に男らしい、お駒の尻追ひは誤辦護士の香取君、夫れから裕和盛の林とお常との關係などは仲々の珍である(判官)▲花月の三拍子を花に譬へると新駒は香り床しき梅の花、何處か氣高き風が見える桃子は矢張り桃の花無邪氣ながら俠な方で張と意氣地を立通すは感心、喜蝶は一寸と人に持て囃さるゝ丈け又散り易い何うしても櫻の花てある(花垂子)▲鐵嶺南門女子に比て意張は一寸殊勝の樣だが丁度窃盜はしても强盜はせぬと誇に似て居る尻の光で國は光ませんよ螢であるまいし(同士打爺)▲二本町廣田屋の桃代は愛嬌もあり一寸別品だが王に疵が一つある八テ何處だらうするは僕と外二三名(世話人)▲大黑屋のお繁君鑑札を上げてから一ケ月も立つに矢張賣々とは一体身の振方をドウするの(地廻り)▲日本館て着物道樂は吉勇姐さんて夜具道樂は福子姐さんのさうだ福子の墮落は近頃隨分はげしい(吳服屋の小僧)▲昨日の本欄の八入好きの番付中に髮結のお政も入り居りしが之は誤りにつき取消します(係り)

防長上白米新着　盛進商行　(電話二十番)

## □新川柳（投句歡迎）

旦那は成金奧樣は元の左褄　うた子
其當座宿が〳〵を振り廻し　同
院長は奧樣方の穴を知る　同
はり金の世渡ラブも交換手　同
裏戒りま茶挽花引風邪をひく　同

特別廣告

移轉廣告
信濃町（浪速町南へ入）
明治四十年十月二日
本願寺關東別院

牛莊郵便局爲替貯金
金銀受拂相場　自十月六日至十月十二日
軍票又ハ圓銀壹圓付ニ
太邦通貨　金壹圓〇三錢六厘
電話問合ヲ謝絶ス

佐藤竹治送葬の際は遠路御會葬被下難有奉鳴謝候混雜中御尊名伺漏も可有之に付此段乍略儀以紙上御禮申上候
十月六日
佐藤公司
親戚一同

廣告
廣告主へ御用の節は滿洲日報にて見し旨御申添被下度

營口出帆廣告
日本郵船會社瀛船出帆
相模丸 十月九日午后一時太沽芝罘長崎門司神戸行
御乘客は午前十一時迄に御乘込相成度候
酒田丸 十五日未明出帆大連門司神戸横濱行
御乘客は前晩六時迄に御乘込相成度候
竹島丸 十八日午前六時出帆太沽芝罘門司神戸行
御乘客は前晩六時迄に御乘込相成度候
(乘船切符發賣ハ出帆前三時迄ニ 未明出港ノ分ハ前日午後五時迄)
營口代理店 旗昌洋行 (電話二六番)

瀛船營口出帆
摩耶山丸 頼朝丸 (營口大阪間定期)
音羽丸 御代丸 (營口長崎間定期)
北辰丸 十月十日入港豫定
福陽丸 本日入港 八日入港
松茂洋行 電話(五二、五七)

瀛船出帆廣告
長柄丸 (營口天津間定期)
萬成源丸 (營口芝罘天津間定期)
第二生田丸 近日入港
代理店 東和公司 (電話四一〇番)

大連出帆廣告
日本郵船會社瀛船出帆
横濱丸 九日正午十一時門司宇品神戸行
大棧橋より發船可致候 (電話貳壹番)
日本郵船株式會社大連出張所

大阪商船會社瀛船出帆
鐵嶺丸 八日正午門司神戸大阪行
勝山丸 九日午後三時門司横濱行
天草丸 十二日正午門司神戸大阪行
大棧橋より發船可致候 (電話貳貳零番)
大阪商船株式會社大連出張所

松茂洋行船舶部瀛船出帆
摩耶山丸 十日後四時營口行
頼朝丸 十五日午後四時營口行
音羽丸 十八日午後四時營口行
▲乘船切符は吉野町大山通り角〇ト運送店にて發賣可致候
大連市監部通り二丁目(電話二五九番)
河邊商店大連出張所松茂洋行

資本金貳千四百萬圓
積立金壹千五百零五萬圓
本支店出張所
横濱 神戸 東京 長崎 大阪 倫敦
里昂 紐育 桑港 布哇 孟買 香港
上海 漢口 天津 北京 大連 旅順
奉天 遼陽 芝罘 鐵嶺 安東縣 長春
(寬城子)
電話十番(支配人室)(百八番事務室)
横濱正金銀行牛莊支店

正隆銀行
營口元神廟街二八六
電話 支配人室三四一 事務室二一〇
總經理人 深水十八
隆記洋行
西營口老爺閣東小紅樓西南側
西分店 電話四二

# 廣告

弊店儀事業の一部として昨年四月地を牛家屯遼河左岸にトし工場敷地として二万四千坪を購入し大豆粕製造所の建築に着手致居候處幸ひに工場内に於ける諸機械の据付及大倉庫の建築も殆んど完了致し不日製品に着手可致候に就ては此際業務を擴張し來る十月十日を期し本店を營口老爺閣街戸部銀行西隣に移轉し製品の御注文に可應候尚ほ製品は牛家屯小寺碼頭より直接船積の便有之候間陸續御注文の程伏して希望仕候　敬白

清國營口老爺閣街 小寺洋行本店 (電話二五五)
清國牛家屯清泰街 小寺機器油坊 (電話三〇三)
清國大官屯(牛家屯停車場北) 小寺農場 (電話一〇六)
大日本神戸市兵庫西出町六百六十七番邸 小寺洋行神戸支店

敬啓者本行此次推廣業務在營口牛家屯之間買地貳萬四千坪建設油坊月前動工興築一工廠棧房並備置一切機器現已告竣日内開辦鬱蒙諸公賜顧若有提供原料者在敝廠包辦製造豆餅且從來本行賬房設在辟地頗不方便故自陽歷十月初十日以後將賬房移遷於營口老爺閣街戸部銀行西隔壁以便來翔面議本行現在牛家屯設有碼頭以便裝貨諸公請翔臨本行面訂庶不致悞專此佈告
小寺洋行主人敬白

遼東病院
▲診察の上入院隨意
▲入院料 自金壹圓五拾錢 至金五圓
旅順八島町貳番地(郵便局隣)
院長 今村春逸

## 大連民政署長關屋貞三郎君送別會會計報告

收入之部
一金七百二拾圓也 會費參百六拾人分
一金六拾錢 雜收入但殘酒賣却
合計七百貳拾圓六拾錢也

支出之部
一金八拾八圓八拾錢 會場設備費山葉洋行拂
一金壹百參拾六圓也 折詰參百四拾人前分扇芳亭拂
一金貳圓拾錢也 會券印刷費小林活版所拂
一金拾圓四拾錢也 盃四百個代土岐商店拂
一金拾圓也 寫眞代管原寫眞館拂
一金貳拾壹圓也 シャンペン酒參瓶代大和ホテル拂
一金拾六圓六拾錢也 澤鶴牛樽壹挺代宅拂 白菊盛牛樽壹挺代肥塚拂
一金五圓五拾九錢 食卓用金巾洗濯賃高岡拂
一金貳拾壹錢 車馬並に苦力賃
一金八圓也 諸心付三人分
一金貳拾圓 廣告費遼東新報社滿洲日報社拂
合計參百貳拾圓六拾錢也
差引四百圓也
右差引殘金關屋貞三郎君に寄贈する事に内定す
送別會會計 岩崎 原 三郎

冬荷品揃
三週年賣出し
今回祝意の爲め十月五日より十五日迄冬着賣出安賣は元より又々空前の大安賣瓦斯地丈け壹反に付特に金七拾五錢期日中販賣仕餘興として福引仕候間何卒御來車の程奉待上候
景品目次
天、朱珍廣帶 壹本
地、濱縮緬小紋 壹反
人、御召縮緬 壹反
外に絹布及綿布數百反
福引券は金參圓毎に壹葉を呈し直に改札福品引換可申候但し福引券は無料配布は無之候
營口木村呉服店 (電八八番)

廣告
川上保太郎
木村恭太郎
石丸喜代造
右解雇候に付爾來當組に關係無之此段廣告候也
月　日
吉川組

一杉丸太 一板小割
一亞鉛板 一平野水
一消毒石灰 一各種石炭
一白米 一木炭
一洋釘 一セメント
營口南本街四丁目
喜久洋行 (電話三一四)

電氣技術見習生拾五名試驗ノ上採用ス
希望者ハ本社電氣係ヘ申出ツヘシ
但身体強健ニシテ高等小學卒業以上ノ學力ヲ有シ年齡十七歳以上廿五歳以下ノ者ニ限ル
明治四十年十月三日
南滿洲鐵道株式會社

旅館 大和館

頭彩壹萬圓
第二十四次 大連彩票賣出
開彩十月二十六日
裕和盛 (電話八壹)

森病院
內外科 産婦人科 齒科 (入院隨時)
院長 森

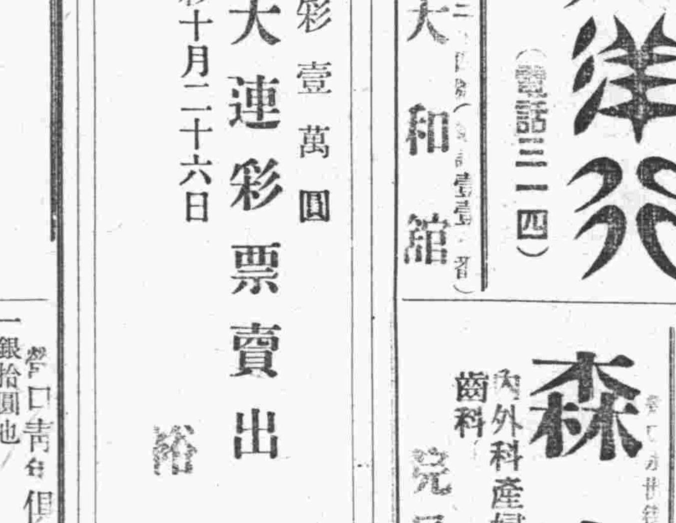
盛進商行
牛莊新市街 (電話二十番)
振替貯金口座一〇〇九〇番
貴婦人用肩掛
東都之流行 ピン各種
紳士用首卷

營口青年倶樂部寄附者芳名
銀拾圓也 增田又一殿
仝拾圓也 内田鐵一殿
仝拾圓也 某殿
仝拾圓也 平田初熊殿
仝拾圓也 井上泰三殿
仝拾圓也 長谷川吉次郎殿
仝二拾五圓也 矢野種三郎殿
仝三十圓也 旗昌洋行殿
仝拾圓也 杉原泰治殿
仝拾圓也 加藤景美殿
仝五圓也 本江榮殿
仝五圓也 高間彌之助殿
仝拾圓也 永順洋行殿
仝拾圓也 天春又三郎殿
仝五圓也 村田信太郎殿
仝五圓也 太田伊之助殿
仝五圓也 渡邊賴章殿
仝三圓也 三島泰太郎殿

專業御旅館
開業以來の御高評に背かざる様何事も誠實に御客様の御便利を計り極めて丁寧に御扱ひ致御宿泊料の如きは出來得る限り勉強可仕候間何卒特別の御贔負偏に奉希上候敬白
營口新市街南本街
清林館 (電話三〇一番)

營口新市街千代田街
日本旅館
專業旅館並に高等下宿
店主 三野傳藏 (電話一三〇)

土木建築請負
煉瓦、石灰、石材及び各種建築材料
各出張所在地
大連 長春 公主嶺
鐵嶺 湯崗 奉天
張臺子 千金寨 遼陽
鄭家店
營口 飯塚工程局 (電話一六五)




御料理 觀音樓 旅順三笠町

營業科目
●建築用金物 ●石工煉瓦左官具 ●亞鉛引鉄線 ●ボールトカスガイ ●鐵工鍛工ブリッキ工具 ●土工用工具各種 ●護身用ピストル各種 ●金庫ンカン各種 ●大工道具各種 ●便利一分間湯沸器
●鶴嘴ショベル ●亞鉛板洋釘 ●スコップ鳶口 ●ハンドボール万力 ●コオールダ ●鐵道鑛山工具 ●新式獵銃及附屬品 ●ストーフ各種 ●ロップ及ブルック ●ジョレン鋤鎌
其他各種金物類廉價にて販賣仕候
營口永世街 (電話二二壹番)
寶圓洋行

# 物價

## 營口爲替相場十月五日

正金銀行一覽拂（百圓ニ付）
- 內地　一〇三圓
- 天津　一〇三圓三分ノ四
- 上海　七一兩四
- 芝罘　一〇四圓四分ノ一
- 銀塊相場　三十片十六分ノ十一

## 同通貨相場

正隆銀行　受　拂
- 銀貨（百圓）軍票　八八、九〇　九〇、五〇
- 金貨（百圓）軍票　九六、五〇　九七、八〇
- 「ルーブル」卜軍票　九七、一〇　九八、六〇
- 墨銀卜軍票　一〇三、四〇　一〇五、〇〇

## ▲營口物價▼

### ●木材相場

- 杉丸太一丈（本口才）　五五
- 全二間（全）　六〇
- 全三間（全）　七〇
- 栂丸太一丈二間（全）　五〇
- 杉押角一丈二間（全）　六〇
- 杉板四分（一坪）　一、一〇〇
- 全大分（全）　一、三〇〇
- 全八分（全）　一、八〇〇
- 栂板六分（全）　一、二〇〇
- 全八分（全）　一、七〇〇
- 全正一寸（全）　二、一〇〇
- 縦板四分（一坪）　一、〇〇〇
- 全八分（全）　一、五〇〇
- 栂板全（全）　同斷
- 杉大角物（一石）　七、〇〇〇
- 松七角（全）　六、五〇〇
- 仙臺檜（全）　六、〇〇〇
- 北海松（全）　五、〇〇〇
- 杉貫大（十枚）　二、六〇〇
- 全中（全）　二、〇〇〇
- 松垂木（一肩）　一、四〇〇
- 全正角（全）　二、二〇〇

●注意　以上は龍物を標準さしたる價格なり

（舊市街大原洋行調）
- 澤鶴（四五入）一樽　一七、〇〇
- 瓢水印味淋（四打入）一函　一四、〇〇
- 蜂印葡萄酒（四打入）全　一九、〇〇
- 龜甲萬醬油　一樽　三、八〇

- 甲醬醬油（一號）全　三、〇〇
- 全上（二號）全　二、四〇
- 全（大）全　八、五〇
- 菊香印　全　三、五〇
- 醬油斗樽　全　六、〇〇
- 戰印酢（大）全　五、二〇
- 本京澤庵（大）一樽　一三、〇〇
- ならづけ　全　六、〇〇
- うめぼし　全　五、五〇
- 紅生姜　全　二、〇〇
- 小田原晒韮　斗
- 全瓶詰（四〇入）一函　九、〇〇
- 白味噌（一八入）一樽　七、五〇
- 讃岐味噌（全）一樽　七、五〇
- 金山寺味噌（五入）全　四、三〇
- 椎茸荒葉（十貫）　七五、〇〇
- 淺草海苔（千枚）　一二、五〇
- 鰹節土佐（十貫）　七〇、〇〇
- 全薩摩（全）　五〇、〇〇
- 干瓢（五貫）　三、七〇
- 片栗粉（十貫）　七、〇〇
- 白玉粉（百本）　八、五〇
- 蠟燭（全）　六、〇〇
- 高野豆腐（千個）　六、五〇
- 燒麩（全）　一、二〇
- 御出昆布十貫　五、〇〇
- 利尻昆布上（全）　一七、五〇
- 同中（全）　一四、五〇
- 朧昆布（全）　[illegible]
- 白髮昆布（全）　[illegible]
- 切全（十玉）　[illegible]
- 荒芽（全）　[illegible]
- 鳴門若芽（十貫）　[illegible]
- 寒天（百本）　[illegible]

### ●西陣冬之織物（木村呉服店）

着尺之部　自　至
- 春丹後縮緬　二五〇　三五〇
- 好貴御召　二〇〇　三〇〇
- 紋織御召　二〇〇　三〇〇
- 風通御召　一八〇　三五〇
- 縞御召　一七〇　三五〇
- 綴御召　二〇〇　三〇〇
- 縮緬無地一反　一〇〇　二〇〇
- 全友染全　一〇〇　二〇〇
- 白給子帶地九寸全　一五　二五

### 帶地之部

- 博多織　一五　二一五
- 厚板及色朱子　一三〇　一八〇
- 朱珍織色取合　一五　一五
- 本小柳　八　一五
- 綴之錦　五〇　一二〇〇
- 金通シ　五〇　一五〇
- 厚板織　二〇　八〇
- 呉服織　二〇　五〇
- 朱多珍織　一〇　四〇
- 博多珍織　三〇　六〇
- 黑紗及色朱子　三六　八〇
- 帶地男物七寸
- 厚板織　三　一五
- 博多織　五　二〇

### ●關東冬之織物

絹香之部
- 御召縮緬　三　一五
- 琥珀御召　三　一七
- 伊勢崎銘仙　五　一五
- 結城紬　七　三〇
- 好貴織　一〇〇　二〇
- 諸糸織　一〇　二〇
- 諸糸節織　一〇　二〇
- 色部內及縞取合一反　六　一〇
- 色根古屋全　五　一〇
- 羽二重紅絹全　四　一〇
- 本六丈紅絹全

（新市街盛進商行調）
- 櫻正宗（四五入）一樽　一七、〇〇
- 全（二五入）全　[illegible]
- 全（二二入）全　[illegible]
- スペシャー四打箱　[illegible]
- エビスビール　一函　九、五〇
- 醬油金京印一斗入一樽　[illegible]
- 全（二二入）全　[illegible]
- 全銀印（二〇入）全　[illegible]
- 孔雀印平の水　一函　[illegible]
- シャンペンサイダー　全　[illegible]
- シンジャエール　全　[illegible]
- 防長上米　石　[illegible]
- 中國上白米　全　[illegible]
- 朝鮮白米上等　全　[illegible]
- 全特等　全　[illegible]
- 薪正味十貫　[illegible]
- 極上木炭　全八〆　[illegible]
- 宇治玉露　斤　[illegible]
- 全高砂　全　[illegible]
- 正喜撰　全　[illegible]
- 烏龍茶上　全　[illegible]

- 青柳　中斤　全　一、三五〇
- 銀印ビスケット一磅入打　四、五〇
- ハウスホールド　全　六、〇〇
- スポンビー　全　七、〇〇
- ローズ　全　七、〇〇

### ●日本綿布相場（永順洋行）

兩
- 牡丹牌大尺布一疋　一、四〇
- 桃牌全　全　一、三五
- 寅字佛藍布　全　一、二七
- 全佛青布　全　一、三五
- 堅字佛青布　全　一、三〇
- 全深藍布　全　一、〇〇
- 花旗佛（麒麟印）廿碼　二、六〇
- 青布東洋緞子頭等（孔雀牌）一碼　五三
- 全二等　一碼　五〇
- 東洋花手巾一ダース　五〇
- 全毛手巾一ダース　五五

### ●清商綿布綿糸綿花相場（〇印は日本品）（一綑ニ付）

兩
- 〇〇十六番手藍魚綿糸　一〇、三五
- 〇〇十六番手（？）全　九、七〇
- 全十六支老橋　全　八、三〇
- 全彩橋　全　七、八〇
- 全人担茶　全　七、八〇
- 全紅人竹　全　七、六〇
- 全金寶星　全　六、七〇
- 六支燈塔　全　六、七〇
- 十丈大小英花其布（一四二付）　四、一五
- 全一號二甲　全　四、〇〇
- 〇〇全二號二甲　全　四、〇〇
- 全一號人馬　全　三、九〇
- 全二號人馬　全　三、八〇
- 全獅球　全　三、八〇
- 十五龍印打連布　四、三〇
- 全老雙兔　全　四、八〇
- 全大小英　全　四、八五
- 全大熊星　全　四、三八
- 八丈豊裕炊布　四、〇〇
- 同興隆大尺布（百尺ニ付）　一、九〇
- 永孚全　一、八八
- 朱福源全　一、八六
- 廣大和全　一、八六
- 公大昌全　一、八六
- 和順長全　一、八六
- 大裕清水布（一四二付）　九、二〇
- 徐成全　八、二〇

### 棉花（百斤ニ付）

- 九華棉花　一、八八
- 雪錦全　一、八八
- 陳元生全　一、八六
- 東京全　一、八六
- 西豐全　一、八五
- 鼎大全　一、八四
- 鴻記全　一、八五
- 朱耀記全　一、八五

### 紙類（新市街見本洋行）

- 美濃紙大印（一〆）　七、〇〇〇
- 全松印　六、五〇〇
- 全竹印　六、〇〇〇
- 全梅印　五、五〇〇
- 改良半紙大印　三、三〇〇
- 全金印　三、一〇〇
- 全銀印　三、〇〇〇
- 全福印　二、四〇〇
- 全生漉半紙上　四、〇〇〇
- 全並　三、五〇〇
- 六寸切大印　三、〇〇〇
- 全金印　二、三〇〇
- 全福印　二、〇〇〇
- 大七九紙生漉松印　一、六〇〇
- 七九全松印　一、七〇〇
- 全竹印　一、四〇〇
- 全梅印　一、二〇〇
- 壓紙生漉上　一、〇〇〇
- 全中　一、六〇〇
- 障子紙（六十枚）一束三百　三、五〇〇
- 越前奉書（八十枚）一束百　一〇、〇〇〇
- 中（全）　四、五〇〇
- 四ノ內（全）　四、〇〇〇
- 仙花（一束六百枚）　四、八〇〇
- 美濃罫紙上（一千枚）　三、五〇〇
- 全並（全）　二、六〇〇
- 全半罫紙（全）　一、五〇〇
- 半紙罫紙上　二、〇〇〇
- 全並　一、五〇〇
- 美濃表紙（百枚）　二、八〇〇
- 半紙表紙（全）　一、五〇〇
- 鳥の子（十斤に付）　七、〇〇〇
- 圖引用紙（百枚に付）　三、〇〇〇

●支那向窓張紙
- 二尺角一〆千五百廿枚　二、〇〇〇
- 一尺八寸角全　九、〇〇〇
- 一尺六寸角全　五、五〇〇
- 包紙　百枚　二、〇〇〇
- スサ紙　十貫目に付　二〇、〇〇〇
- 油紙　一枚に付　二〇

●洋紙類
- 模造紙百斤に付　一三、〇〇〇
- 四六判鳳印　五、〇〇〇

### （新市街加藤洋行調）

- 赤靏判　三、二〇〇
- 菊正宗（三九入）一樽　一八、五〇〇
- 全瓶詰（四打入）一函　一四、五〇〇
- 全進物用一打入　全　四、二〇〇
- 札幌麥酒　全　九、五〇〇
- スペシャル　全　[illegible]
- イト旭麥酒　全　二、五〇〇
- 蜂印香竄葡萄酒　全　一九、五〇〇
- 酒大（四打入）　[illegible]
- 全小（七打入）全　三、〇〇〇
- 孔雀印ヤノ水　全　四、五〇〇
- 三ツ矢印シャンペンサイダー　全　五、五〇〇
- ヤマサ醬油　一樽　三、八〇〇
- 鶴印ソース（六ダース入）　一函　一三、〇〇〇
- 和ソース（六ダース入）　一函　七、五〇〇
- バタ（一磅鑵百個入）　全　二五、〇〇〇
- グリーンピース　全　一九、〇〇〇
- 筍（三十個入）　全　五、五〇〇
- 松茸（四ダース入）　全　九、〇〇〇
- 百合印蒲鉾　全　一三、五〇〇
- 鮑（四ダース入）　全　一五、〇〇〇
- ビスケット（五十磅入）　全　一〇、五〇〇
- 旭奈良漬三斤（四ダース入）　全　九、五〇〇
- 鑵奈良漬（四ダース入）　一樽　一四、〇〇〇

- 英國製中折帽　（四、五〇〇　八、〇〇〇）
- 黑山高帽子　（四、〇〇〇　六、〇〇〇）
- 鳥打帽子　（八〇〇　二、〇〇〇）
- ラクダ毛防寒帽　（一、五〇〇　三、〇〇〇）
- ラッコ毛皮帽　（五、〇〇〇　三〇、〇〇〇）
- スコッチ靴下　打　（四、〇〇〇　三〇、〇〇〇）
- 全長靴下　全　（三〇、〇〇〇）
- カシメン手袋　全　（三、〇〇〇　八、〇〇〇）
- スコッチ手袋　全　（四、〇〇〇　八、〇〇〇）
- 皮手袋　全　（二、〇〇〇　四、〇〇〇）
- 獨乙製毛メリヤス上下組　（三、五〇〇　六、〇〇〇）
- 全ジャケツ　全　（四、〇〇〇　五、〇〇〇）
- 舶來毛メリヤス全　（四、〇〇〇　六、〇〇〇）
- 白毛布二枚續　（二、〇〇〇）
- 色全　全　（一、〇〇〇　二、〇〇〇）
- 舶來綿全撰様入　（六、〇〇〇　三、五〇〇）
- ネル地膝掛　（一、五〇〇　七、〇〇〇）
- ラクダ膝掛　（二、五〇〇　五、〇〇〇）
- 毛ヘル　（一、四〇〇　四、〇〇〇）
- 羽根蒲團　（一、八〇〇　一〇、〇〇〇）
- 全繻子地　（三、〇〇〇　二〇、〇〇〇）
- クッション　（一、二〇〇　五、〇〇〇）

## ▼遼陽物價▲

### ●精白米（西街瑞榮洋行）（一石ニ付）

- 特壹等（◆赤印）　三、八〇
- 特等（◆紫印）　三、四〇
- 壹等（◆青印）　三、〇〇

### ●鑵詰類

- 鮭（一斤）四ダース　八、八〇
- 鮭（半斤）八ダース　九、三〇
- 鱒（一斤）四ダース　八、八〇
- 鯖（半斤）八ダース　九、二〇

### ●化粧品

- 御園四季花壹ダース　大　一、二八　小　一、二五
- 御園の雪　全　[illegible]
- 御園とき水　全　[illegible]
- 御園齒磨　全　[illegible]
- 全壜入　全　[illegible]
- チエリーオイル　全　大　[illegible]　中　[illegible]
- チエリーポマード　全　小　[illegible]

（向井洋行）　金票
- 清酒金露　四斗四升　一八、〇〇
- 札幌ビール四ダース函　一〇、一〇
- 醬油上印　壹斗　三、一〇
- 全梅印　全　三、〇〇
- 全櫻印　全　三、一〇
- 全龜印　全　二、八〇
- 東京澤庵漬十二貫　六、〇〇
- 銀印ビスケット一磅　四、八〇

## ▼大連物價▲

### ●洋釘類（三重洋行支店）（壹百斤）

| 品名 | 價格 |
|---|---|
| 四分ノ三インチ | 一一、五〇〇 |
| 一インチ | 一一、五〇〇 |
| 一インチ四分一 | 一〇、〇〇〇 |
| 一インチ半 | 九、二〇〇 |
| 一インチ七分五 | 九、九〇〇 |
| 二インチ | 八、六〇〇 |
| 二インチ半 | 九、五〇〇 |
| 三インチ | 八、五五〇 |
| 三インチ半 | 八、四〇〇 |
| 四インチ | 八、六〇〇 |
| 四インチ半 | 八、四〇〇 |
| 五インチ | 八、九〇〇 |
| 六インチ | 八、五〇〇 |
| 七インチ | 八、九〇〇 |

### ●土丹引板類（壹板）

| 品名 | 價格 |
|---|---|
| 平板廿八番 | 一、九九〇 |
| 廿六番 | 一、三〇〇 |
| 廿四番 | 一、四一〇 |
| 廿二番 | 一、七六〇 |
| 廿番 | 二、三二〇 |
| 十八番 | 二、七四〇 |
| 十六番 | 三、五二〇 |
| 十四番 | 四、五五〇 |
| 亞鉛板六尺 | 六、九〇〇 |
| 全七尺 | [illegible] |
| 全八尺 | [illegible] |
| 廿八番六尺 | [illegible] |
| 全七尺 | [illegible] |
| 全八尺 | [illegible] |
| 廿六番六尺 | [illegible] |
| 全七尺 | [illegible] |
| 全八尺 | [illegible] |
| 廿四番六尺 | [illegible] |
| 全七尺 | [illegible] |
| 全八尺 | [illegible] |

### ●洋麵（但馬町二番地）（日本製粉株式會社）（各一袋）

| 品名 | 價格 |
|---|---|
| 寶船印 | 二、三八 |
| 日本旗印 | 二、三三 |
| ロシヤ印 | 二、三三 |

### ●世帶道具（信濃町增井商會）

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 十四吋バケツ壹番 | 壹打 | 三、六八〇 |
| 貳番 | 全 | 三、一五〇 |
| 參番 | 全 | 二、七〇〇 |
| | 全 | 二、四五〇 |

### 鉄器・漆器

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 銚今呂 大 | 十個 | 六、〇〇〇 |
| 全 中 | | 五、五〇〇 |
| つや消會席膳 尺一 | 十人 | 四、八〇〇 |
| 全 尺二 | | 六、〇〇〇 |
| 溜内消全 尺二 | | 六、七〇〇 |
| 吸物椀龜甲 三寸八 | | 一、四五〇 |
| 全 四寸 | | 一、八〇〇 |
| 全曙 四寸 | | 一、八〇〇 |
| 全溜 四寸仙才 | | 一、八〇〇 |
| 吸物椀蒔繪入 | 自 | 二、五〇〇 |
| | 至 | 八、〇〇〇 |
| 菓子椀蒔繪入 | 自 | 二、五〇〇 |
| | 至 | 八、〇〇〇 |
| 能代會席膳尺一 二十枚入 | 十組 | 三、〇〇〇 |
| 全廣盆 尺六 | （全上） | 九、〇〇〇 |
| 溜九寸丸盆 | （全上） | 二、七〇〇 |

### ●和洋食料品（吉野町二丁目河村洋行）（各十樽ニ付）

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 東京澤庵 | 十二〆目 | 五七、〇〇〇 |
| 奈良漬 | 八〆目 | 一三五、〇〇〇 |
| 掛眞薩 | 十二〆目 | 六五、〇〇〇 |
| 味噌漬大根 | 同 | 九〇、〇〇〇 |
| 仙臺味噌桶上 | 六〆目 | 七五、〇〇〇 |
| 同 | 同 | 七〇、〇〇〇 |
| 白味噌 | 同 | 六五、〇〇〇 |
| 金山寺味噌 | 五〆目 | 三五、〇〇〇 |
| 卷梅干 | 二百目 | 一三、〇〇〇 |
| 赤梅漬 | 三〆目 | 二五、〇〇〇 |
| 紀州梅干 | 五〆目 | 三六、〇〇〇 |
| 万印醬油 | 九升詰 | 三五、〇〇〇 |
| 山サ印醬油 | 全 | 三一、〇〇〇 |
| 山山印醬油 | 同 | 二三、五〇〇 |
| 平和印醬油 | 同 | 二〇、〇〇〇 |
| 來福印醬油 | 同 | 一三、〇〇〇 |
| 新印醬油 | 同 | 一八、〇〇〇 |
| 開榮印醬油 | 同 | 一九、〇〇〇 |
| 華印醬油 | 同 | [illegible] |
| 華印醬油 | 三斗九升 | 六五、〇〇〇 |
| （各入開一函ニ付） | | |
| 保萬齡漬 | 一斤罐 | 八、二〇〇 |
| 葉唐辛子 | 同 | 八、〇〇〇 |
| 牛肉甲 | 同 | 二、〇〇〇 |
| 同乙 | 同 | 八、五〇〇 |
| さゝげ | 同 | 七、八〇〇 |
| かつをぶし | | 七、七〇〇 |
| 大烏賊 | | 七、二〇〇 |
| 松茸ボイルト | | 九、〇〇〇 |
| しほしやけ | | 九、〇〇〇 |
| 福神漬甲 | | 六、五〇〇 |
| 同乙 | | 六、〇五〇 |
| あかゞい | | 六、八〇〇 |
| ならづけ | | 七、五〇〇 |
| 樺太煮 | 半斤罐 | 五、三〇〇 |
| 鰹日本煮角罐 | （六打二函） | 八、三五〇 |

### ●油類及亞鉛板（各一斗罐二個入一函ニ付）

| 品名 | 價格 |
|---|---|
| 久美油（上） | [illegible] |
| 白絞油（上） | [illegible] |
| 同（中） | [illegible] |
| 同（下） | [illegible] |
| 正種油（上） | [illegible] |
| 鯨油 | [illegible] |
| 馬油 | [illegible] |
| 桐油 | [illegible] |
| 荏油 | [illegible] |
| スノー一番白ペンキ | [illegible] |
| 同二番同 | [illegible] |
| 同三番同 | [illegible] |
| 舶來光明丹 | [illegible] |
| ハバックスボイル油 | [illegible] |
| バーレル同 | [illegible] |
| コールタール | [illegible] |
| ○赤マシン油 | [illegible] |
| 同スピンドル油 | [illegible] |
| 同シリンドル油 | [illegible] |
| 同車軸油上 | [illegible] |
| 同蓮油上 | [illegible] |
| 亞鉛平板 八尺 | [illegible] |
| 同 七尺 | [illegible] |
| 同 六尺 | [illegible] |

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| あなご蒲鉾 同 | 八打一函 | 一三、六〇〇 |
| 筍ボイルド 三斤罐 | 三〇本 | 五、四〇〇 |
| 青紫蘇小瓶入 | （百本） | 二〇、〇〇〇 |
| ハゼ佃煮 | （各一樽ニ付）三〆目 | 六、九〇〇 |

## ▼奉天物價▲（小賣相場）

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 澤鶴 | 一樽 | 金票二七、五〇〇 |
| | | 支那票 [illegible] |
| 蜂印葡萄酒 | 一箱 | [illegible] |
| 鑑甲萬醬油 | 一樽 | [illegible] |
| 鑑甲醬油 | 一號全 | [illegible] |
| 全上 | 二號全 | [illegible] |
| 全 | 上 | [illegible] |
| 東京澤庵 | 全 | [illegible] |
| 奈良漬 | 全 | [illegible] |
| うめぼし | 全 | [illegible] |
| 紅生姜 | 全 | [illegible] |
| 花蓮韮 | 三斗八升入 | [illegible] |
| 白味噌 | 櫻井十八貫入 金 | [illegible] |
| 赤味噌 | 全十九貫入 | [illegible] |
| 金山寺赤味噌 | 七貫入 | [illegible] |
| 椎茸荒葉 | 十貫目 日本銀 | [illegible] |
| 全上ゴミ | 全 | [illegible] |
| 淺草海苔 | 千枚 | 一〇、〇〇〇 |
| 鰹魚（土佐） | 十貫 | 八五、〇〇〇 |
| 全（薩摩） | 全 | 八五、〇〇〇 |
| 干瓢 | 十貫 | 二〇、〇〇〇 |

### ●銀市（十月二日）

| 品名 | 價格 |
|---|---|
| 銀數 | 九吊九百四十文 |
| 現銀元 | 六吊〇八十文 |
| 票銀行 | 九吊八百二十文 |
| 現銀每加色 | 一百二十文 |
| 鈔票 | 十一元五毛 |
| 光頭票 | 六元五毛 |
| 光帖 | 八元五毛 |
| 英洋 | 十三元九 |
| 人洋 | 十八元 |
| 龍洋 | 十七元五毛 |
| 日本手票 每十圓ニ付 | 六吊四百文 |

### ●穀物（每斗）吊 文

| 品名 | 價格 |
|---|---|
| 元豆 | 六、二〇〇 |
| 紅糧 | 三、二〇〇 |
| 小豆 | 五、一〇〇 |
| 吉豆 | 六、二〇〇 |
| 合豆 | 六、一〇〇 |
| 芝麻 | 一九、〇〇〇 |
| 谷子 | 二、八〇〇 |
| 小米 | 六、一〇〇 |
| 小麥 | 八、二〇〇 |
| 球米 | 四、〇〇〇 |
| 粳米 | 二一、八〇〇 |

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 日本白米 | 一俵 | [illegible] |
| 平野赤米 | 全 | [illegible] |
| 黃豆 | 全 | [illegible] |
| 黑豆 | 全 | [illegible] |
| 小豆 | 全 | [illegible] |
| 大麥 | 全 | [illegible] |
| 小麥 | 全 | [illegible] |
| 高粱 | 全 | [illegible] |
| 小米 | 全 | [illegible] |
| 粳米 | 一斗 | [illegible] |
| 豆餅 | 一塊 | [illegible] |
| 豆油 | 一斤 | [illegible] |
| 醬油 | 一箱 | [illegible] |
| 朝日ビール | 一罐 | [illegible] |
| 石油エキス | | [illegible] |
| 上油 | 全 | [illegible] |
| 綿糖 | 全 | [illegible] |
| 青麻 | 一斤 | [illegible] |
| 大麻 | 一兩 | [illegible] |
| 桐子煙 | 全 | [illegible] |
| 片子煙 | 一斤 | [illegible] |
| 寒天 | 千個入 | [illegible] |
| 鳴門若芽 | 十貫 | [illegible] |
| 白髮こんぶ | 十貫 | [illegible] |
| 出シ利尻こんぶ | 十貫 | [illegible] |
| 出シこんぶ | 十貫 | [illegible] |
| 燒麩 | 千個 | [illegible] |
| 高野豆腐 | 二百個入 | [illegible] |
| 晒餡 | 十貫 | [illegible] |
| 白玉粉 | 全 | [illegible] |
| 片栗粉 | 全 | [illegible] |

## ▼鐵嶺物價▲

| 品名 | | 價格 |
|---|---|---|
| 日本金票 | 買 | 六元□毛 |
| | 賣 | 七元五毛 |
| 軍票 | 買 | 十一元八毛 |
| | 賣 | 十二元三毛 |

### ●穀類

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 白米長防一等 | 一石 | [illegible] |
| 全二等 | 全 | [illegible] |
| 朝鮮石拔一等 | 全 | [illegible] |
| 全二等 | 全 | [illegible] |
| 全三等 | 全 | [illegible] |
| 全 | 全 | [illegible] |
| 全 | 全 | [illegible] |
| 隱元豆 | 全 | [illegible] |
| 黑豆 | 全 | [illegible] |
| 小豆 | 一擔 | [illegible] |
| 粱 | 全 | [illegible] |
| 包米 | 全 | [illegible] |
| 紅小豆 | 全 | [illegible] |
| 白小豆 | 全 | [illegible] |
| 黃大豆 | 全 | [illegible] |
| 青大豆 | 全 | [illegible] |
| 豆粕 | 一斤 | [illegible] |
| 小豆餡 | 百斤 | [illegible] |

### ●味噌

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 白味噌 | 十八貫入十樽 | [illegible] |
| 赤味噌 | 全 | [illegible] |
| 金山寺 | 五貫入全 | [illegible] |

### ●漬物

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 奈良漬 | 八貫入十樽 | [illegible] |
| 大根味噌漬 | 十二貫入全 | [illegible] |
| 東京澤庵漬 | 二百入全 | [illegible] |
| 卷梅干 | 二貫入全 | [illegible] |
| 赤梅干 | 十二貫入全 | [illegible] |
| 紅生姜 | 全 | [illegible] |
| 花蓮韮瓶詰 | 四打入 | [illegible] |
| 白蓮韮 | 一四噸 | [illegible] |
| 保萬齡漬 | 一斤入十四打 | [illegible] |
| 全 | 牛斤入十四打 | [illegible] |
| 時雨煮葉唐辛子 | 一斤入四打 | [illegible] |

### ●醬油

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 國運 | 九升入十樽 | [illegible] |
| 萬歳 | 全 | [illegible] |
| 和鶴 | 全 | [illegible] |
| 平 | 全 | [illegible] |
| 來 | 全 | [illegible] |
| 全 | 全 | [illegible] |
| 山甲印 | 一斗入 | [illegible] |
| 山サ印 | 全 | [illegible] |
| 菊香印 | 全 | [illegible] |
| 上玉印 | 全 | [illegible] |
| 東一印 | 全 | [illegible] |
| 甲子印 | 全 | [illegible] |

### ●酢・清酒・麥酒及洋酒・飲料水・罐詰類

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| ●酢 魁印 | 三斗五升入 | [illegible] |
| 全 白鷹印 | 四斗入 | [illegible] |
| ●清酒 百合正宗 | 四斗三升 | [illegible] |
| 澤之鶴正宗 | 四斗五升 | [illegible] |
| 菊正宗 | 三斗九升 | [illegible] |
| 白鹿 | 全 | [illegible] |
| ●麥酒及洋酒 旭ビール | 四打一箱 | [illegible] |
| 全ペールビール | 全 | [illegible] |
| 札幌ビール | 全 | [illegible] |
| 恵比壽ビール | 全 | [illegible] |
| キリンビール | 全 | [illegible] |
| 蜂印香竄葡萄酒 | 一打入 | [illegible] |
| 白葡萄酒 | 全 | [illegible] |
| 生葡萄酒 | 全 | [illegible] |
| ●飲料水 平野水 | 四打入 | [illegible] |
| 金線サイダー | 全 | [illegible] |
| シトロン | 全 | [illegible] |
| 三ツ矢印サイダー | 全 | [illegible] |
| イダシャー | 全 | [illegible] |
| ●罐詰類 大和煮 | 四打入 | [illegible] |
| サーモン | 全 | [illegible] |
| 松茸 | 全 | [illegible] |
| 筍 | 全 | [illegible] |

### ●乾物・茶・洋麵

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| お多福豆 | | [illegible] |
| 福神漬 | 八打入 | [illegible] |
| アナゴ蒲燒 | 四打入 | [illegible] |
| 鯛味噌 | 十四打入 | [illegible] |
| 海苔佃煮 | 八打入 | [illegible] |
| カレー粉 | 四打 | [illegible] |
| 鷲印ミルク | 四打 | [illegible] |
| ●乾物 淺草海苔 | 十帖 | [illegible] |
| 椎茸 | 十貫目 | [illegible] |
| 干瓢 | 全 | [illegible] |
| こぶ上 | | [illegible] |
| ●茶 正喜撰特別上 | 一斤入 | [illegible] |
| 全 | 四半斤入 | [illegible] |
| 入川柳印 | 半斤入 | [illegible] |
| ●洋麵 寶船印 | 一袋ニ付 | [illegible] |
| 東洋印 | 全 | [illegible] |
| 菊水印 | 全 | [illegible] |
| 恵比壽印 | 全 | [illegible] |
| 蘭印 | 全 | [illegible] |

### 雜品

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 醬油 鶴甲萬印 | | [illegible] |
| 石油三星印 | 一箱 | [illegible] |
| 石炭 | 一噸 | [illegible] |
| 燐寸 | 一箱 | [illegible] |
| 綿布白 | 一四 | [illegible] |
| 白麵（ハルビン製一袋百四十五斤入） | | 二三、〇〇〇吊文 |
| 全（米國製一袋四十斤入） | | 七、五〇〇 |
| 小豆 | 一石 | [illegible] |
| 麻 | 一百斤 | [illegible] |
| 粟 | 一石 | [illegible] |
| 綿 | 一百斤 | [illegible] |
| 全上 | | [illegible] |
| 毛頭紙 | 一刀 | [illegible] |
| 葉烟草上 | 百斤 | [illegible] |
| 數の子 | | [illegible] |
| 大嶋 | 全廿入 | 一、四八（洋） |
| 朝日 | 全 | 一、六〇 |
| ビール | 一箱 | [illegible] |
| ヒコタク | 一箱 | [illegible] |
| 軍票 一圓 官帖 | | 二吊八百文 |
| 金票 一圓 洋錢 | | 一圓〇七錢 |
| 軍票 一圓 | | 一圓十二錢 |

## ▼長春物價▲ 吊 文

| 品名 | 數量 | 價格 |
|---|---|---|
| 大豆 | 一石 | [illegible] |
| 小麥 | 全 | [illegible] |
| 豆粕 | 卅斤物 | [illegible] |
| 硬米 | 一石 | [illegible] |
| 鹽 | 百斤 | [illegible] |
| 高粱 | 一石 | [illegible] |
| 豆油 | 全 | [illegible] |
| 黑砂糖 | 全 | [illegible] |
| 白砂糖上 | 全 | [illegible] |
| 米 | | [illegible] |
| 酒 白菊 | | [illegible] |
| 味噌 | | [illegible] |

### ●勞働者賃銀（一日勞銀）

| 職 | 日本人（圓） | 支那人（圓） |
|---|---|---|
| 屋根職 | 二、五〇〇 | [illegible] |
| 石工 | 三、二〇〇 | [illegible] |
| 左官 | 二、〇〇〇 | [illegible] |
| 大工 | 二、五〇〇 | [illegible] |
| 木挽 | 二、五〇〇 | [illegible] |
| 鍛冶職 | 四、二〇〇 | [illegible] |
| 煉化職 | 二、五〇〇 | [illegible] |
| 指物職 | 二、九〇〇 | [illegible] |
| 桶職 | 二、〇〇〇 | [illegible] |
| ペンキ職 | 一、五〇〇 | [illegible] |